

フォレスター活動民国連携調整会議通信

<優良事例の紹介>

Vol.2 2019.3

フォレスター活動民国連携調整会議は、北海道及び北海道森林管理局の森林総合監理士（フォレスター）等が、市町村等への技術的援助やその他必要な協力を円滑かつ効果的に実施するため、情報共有の徹底と連絡・調整等を図ることを目的に設置しています。

北海道北見市、網走郡津別町

コンテナ苗、伐採と造林の一貫作業システム勉強会等の開催

市町村森林整備計画実行管理推進チームの活動

<関係機関>

オホーツク東部管内市町村・森林組合、網走南部・中部森林管理署、オホーツク総合振興局 東部森林室・産業振興部林務課 等

背景と経過

現 状

- ・オホーツク東部地域の一般民有林では、人工林資源の成熟に伴い主伐が進む一方で、森林所有者の造林意欲低下や造林業者の人手不足などにより植栽が進まず、造林未済地が解消されてない。
- ・国有林や道有林ではコンテナ苗を活用した造林作業の低コスト化、国有林では一貫作業システムが実施されている。

問題点

- ・造林業者の人手不足は今後ますます進むことが予想され、このままでは造林未済地は解消されず、確実に人工林資源の循環利用を進めることが難しくなる。
- ・コンテナ苗の植栽や一貫作業システムは市町村や森林組合などの一般民有林関係者には普及していない。

課 題

- ・造林業者の人手不足対策や施業の低コスト化を図るため、コンテナ苗の利用や一貫作業システムの導入について積極的に検討することが必要

解決策

- ・管内市町村、森林管理署及び森林室が連携して、オホーツク東部地域の市町村や森林組合など一般民有林の関係者を対象とした勉強会・検討会等を開催し、効果的にコンテナ苗と一貫作業システムへの理解促進を図る。

実施の状況と結果

① コンテナ苗と一貫作業システム勉強会の実施

【実施内容】

時期：平成30年10月19日（金）

場所：北見市端野総合支所 会議室〔室内〕
（有）樹薬種苗 苗圃〔現地〕

内容：

○情報提供

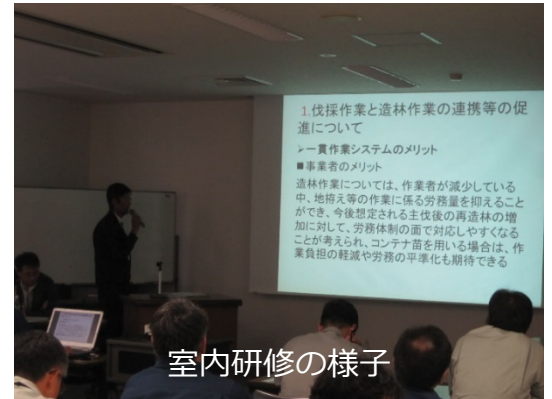
- ・国有林におけるコンテナ苗の利用と一貫作業システムについて
- ・民有林における伐採と造林の一貫作業の取組状況について

○現地研修

- ・コンテナ苗の生産と管理の概要について

【成果】

北見地区の国有林と民有林の関係者が連携して、一貫作業システムに係る現場管理の進め方や助成制度、他管内での取組事例、コンテナ苗の生産状況などの情報を提供した。今後一般民有林でのコンテナ苗の利用や一貫作業システムの導入に向けた意識付けを図った。



室内研修の様子



現地研修（コンテナ苗の生産状況）

② 伐採と造林の一貫作業システム現地検討会の実施

【実施内容】

時期：平成30年11月6日（火）

場所：国有林2016林班（津別町）

内容：国有林における一貫作業システムの施工状況の説明と意見交換

【成果】

伐採と造林の一貫作業システムに対する理解促進が図られた。



現地検討会（一貫作業システム）

③ アンケート調査の実施

【実施内容】

時期：「勉強会」の実施前と実施後

内容：コンテナ苗と一貫作業システムへの理解の確認

【成果】

コンテナ苗の利用と一貫作業システムの導入について検討したいとの意見がある一方、コスト面やコンテナ苗の供給に対する課題や心配など様々な意見が出された。

今後の展開

【これまでの成果と今後の見通し】

アンケート調査の結果から、コンテナ苗の利用や一貫作業システムの導入を推進するに当たって様々な課題があるため、引き続きの国有林と民有林の関係者が連携して、課題解決に向けた取組を展開して行きます。

森林経営計画策定等「倶知安モデル」への支援

後志北地区森林整備計画実行管理推進チームの活動

<関係機関>

倶知安町、ようてい森林組合、後志総合振興局森林室、後志森林管理署 等

背景と経過

現 状

町有林の内、人工林の約7割が主伐期を迎えている。
人工林の施業実施箇所は、約2割にとどまっている。

問題点

人工林の齢級構成に偏りがある。
計画的な伐採や更新が図られていない。

課 題

資源の循環利用及び木材の安定供給に向けた森林計画の策定が必要
効率的な路網計画の策定が必要
各種の事業実施や木材販売に関する技術支援が必要
低コストな森林整備の実施が必要

解決策

- ①「倶知安モデル」の設定による森林計画策定等への支援
- ②林業事業者の連携による具体的な計画策定に向けた現地調査の実施
- ③更新伐等の導入による、伐採・更新計画の平準化
- ④一貫作業システムの導入や列状間伐による低コストな事業の実施

実施の状況と結果

①「倶知安モデル」の設定

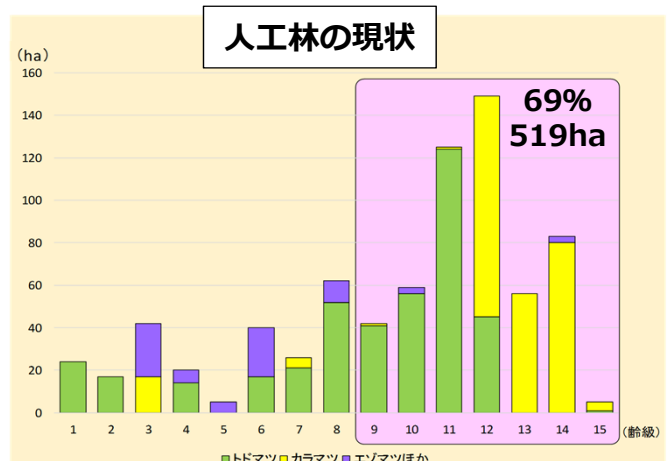
倶知安町は、1,250haの町有林（人工林755ha、天然林495ha）を保有しています。

人工林のうち、9齢級以上は519ha（69%）で高齢級の林分が多く、施業履歴のある人工林は169ha（22%）にとどまっています。

平成29年4月に倶知安町から、町有林を活用するため以下の内容についての技術支援を要請されました。

- ・主伐期を迎えた人工林の整備方法
- ・間伐等の森林施業が必要な林分の整備方法
- ・適切な路網の配置
- ・上記を反映した森林経営計画の策定

後志総合振興局森林室と後志森林管理署は連携して、資源の循環利用や木材の安定供給、低コストな森林整備などを主な内容とする計画を提案することとし、「倶知安モデル」の検討に取り組んできました。

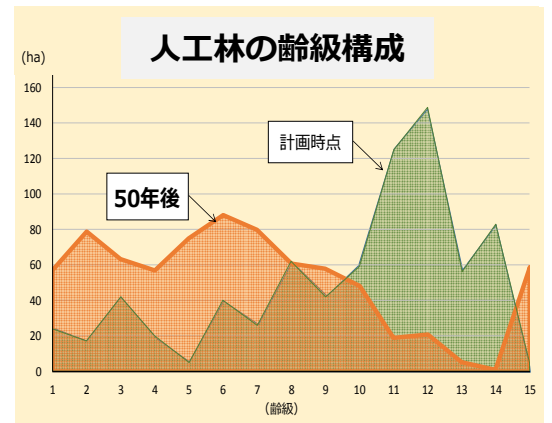


②現地調査等への支援

町有林の行政目的には「地域の森林環境保全」、「適切な森林整備」及び「安定的な販売収入」が位置付けられています。そこで、但知安町の意向も踏まえつつ、年度ごとの事業量を一定に保ち、継続的に収入が得られるような町有林森林経営計画の策定に向けて、現地調査を行い、事業実施可能エリアの絞り込みや路網の把握などを実施しています。

平成29年6月から10月に行った現地調査には、森林組合や町内の林業事業者の方々にもご協力いただき、土場の配置や植栽設計といった実際の施業に関する技術的視点からの助言を得つつ、具体的な森林経営計画の策定に向けた作業を進めました。

また、平成29年7月には、主間伐の方法等の森林経営に関する現地検討会を、近隣の市町村の関係者も交じて実施し、森林計画の考え方や具体的な施業方法について意見交換を行いました。

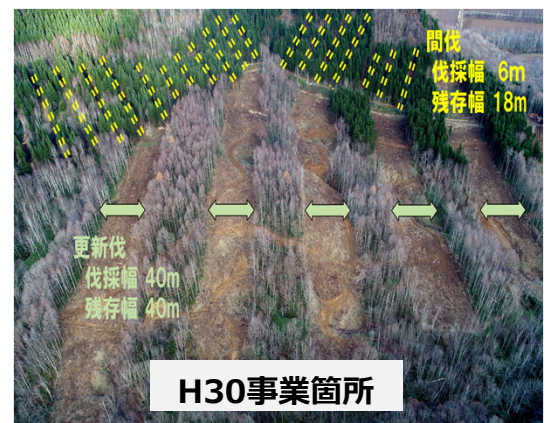


③森林経営計画の策定と実行管理

施業方針は、積極的な主伐・再造林による世代交代を行い、齢級構成のバランスがとれた活力ある森林に誘導するとともに、地域への木材の安定供給を目指すこととしました。人工林775haについて、年間14haの主伐・再造林を順次実施し、植栽木が主伐期を迎える50年後の齢級別面積を70ha程度に近付けることを目標とする森林経営計画を平成29年度に策定し、平成30年度より事業を開始しています。

平成30年度は、更新伐13.62haを実施しました。伐採から地拵までの一連の作業を一括して発注（一貫作業システムの導入）し、隣接する人工林の列状間伐6.96haについても併せて実行しています。

これにより、重機の運搬費や事務経費の削減につなげることができました。



今後の展開

【これまでの成果と今後の見通し】

平成30年度の出材量は1,900m³で、効率的に事業を実施したことにより、生産した木材の売上代金などが、総事業費1,150万円を上回る見込みとなりました。

今後は継続的な事業の実施や収入の確保などが確実にとなると見込まれ、より実効性のある森林経営計画が策定できたと考えています。

H30事業の結果

事業実績	面積:ha、伐採量:m ³ 、金額:千円		
	面積	伐採量 (出材)	事業費 (運材含)
更新伐	13.62	1,500	9,402
間伐	6.96	400	2,100
計	20.58	1,900	11,502

発行：フォレスター活動民国連携調整会議事務局

北海道水産林務部森林環境局森林活用課
〒060-8588 北海道札幌市中央区北3条西6丁目
電話(011)204-5517(直通)

北海道森林管理局森林整備部技術普及課
〒064-8537 北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番地
電話(011)622-5245(直通)